

経済学 A
第 4 回：需要，供給，および政府の政策
【教科書第 5 章】

北村 友宏

2020 年 7 月 22 日

1 売り手に対する課税

- 売り手に対し，財 1 単位当たり定額の課税
 - 課された税の大きさだけ価格を上乗せする必要が生じる
 - 「税込価格における供給曲線」は，当初の「税抜価格における供給曲線」を税の大きさだけ上方に平行移動させたものとなる
 - 売り手は「税込価格における供給曲線」に沿って，供給量を決定
 - どの税込価格においても供給量↓
 - 当初の価格を税込価格として販売している状態では超過需要発生
 - 税込価格↑
 - 新たな均衡へ
- ⇒ 買い手の支払価格↑，売り手の受取価格↓，均衡取引量↓
 - ★ 詳細は解説動画（Google Classroom にて期間限定公開）参照
 - ★ 政府が課税することによって，売り手や買い手の意思決定（財を何単位販売するか，財を何単位購入するか）を歪めている。
- 注意
 - ★ 教科書では「供給曲線のシフト」と説明されているが，これは厳密にはシフトではない。

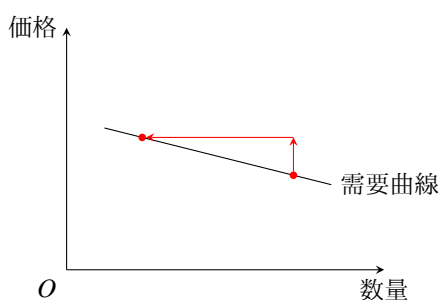
2 買い手に対する課税

- 買い手に対し、財 1 単位当たり 定額 の課税
 - 「財そのものの価格 + 税金」が、その財を 1 単位購入することの費用となる
 - 課された 税の大きさ だけ、財の価格が安くならなければ、今までと同じ量を購入しなくなる
 - 当初の需要曲線が「税金を含めた、財の購入費用における需要曲線」となり、「財そのものの価格における需要曲線」は、「税金を含めた、財の購入費用における需要曲線」を 税の大きさ だけ下方に 平行 移動させたものとなる
 - 買い手は、財の需要量は「財そのものの価格における需要曲線」に沿って決定
 - どの価格においても需要量 ↓
 - 当初の価格を財そのものの価格として販売している状態では超過供給発生
 - 財そのものの価格 ↓
 - 新たな均衡へ
- ⇒ 買い手の支払価格 ↑, 売り手の受取価格 ↓, 均衡取引量 ↓
 - ★ 詳細は解説動画 (Google Classroom にて期間限定公開) 参照
 - ★ この場合も、政府が課税することによって、売り手や買い手の意思決定を歪めている。
- 注意
 - ★ 教科書では「需要曲線のシフト」と説明されているが、これは厳密にはシフトではない。

3 税負担の割り振り

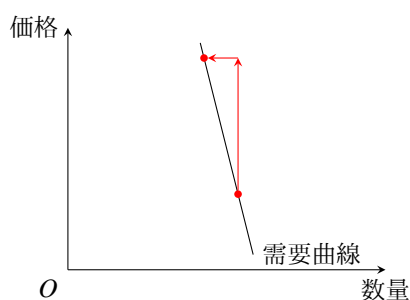
- 弾力的需要

- ★ 価格が上昇すると需要量は大きく減少する
- ★ 需要曲線の傾きは緩やか



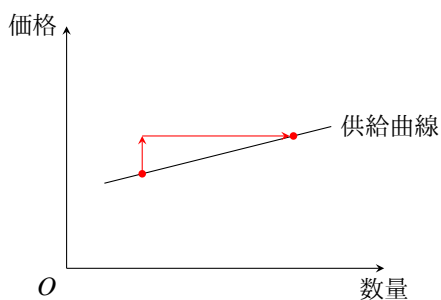
- 非弾力的需要

- ★ 価格が上昇しても需要量はあまり減少しない
- ★ 需要曲線の傾きは急



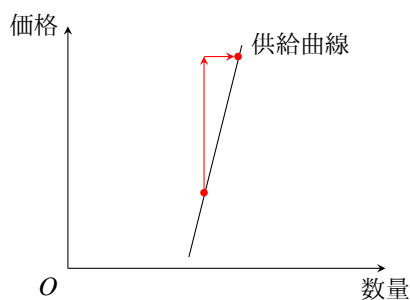
- 弾力的供給

- ★ 価格が上昇すると供給量は大きく増加する
- ★ 供給曲線の傾きは緩やか



- 非弾力的供給

- ★ 価格が上昇しても供給量はあまり増加しない
- ★ 供給曲線の傾きは急



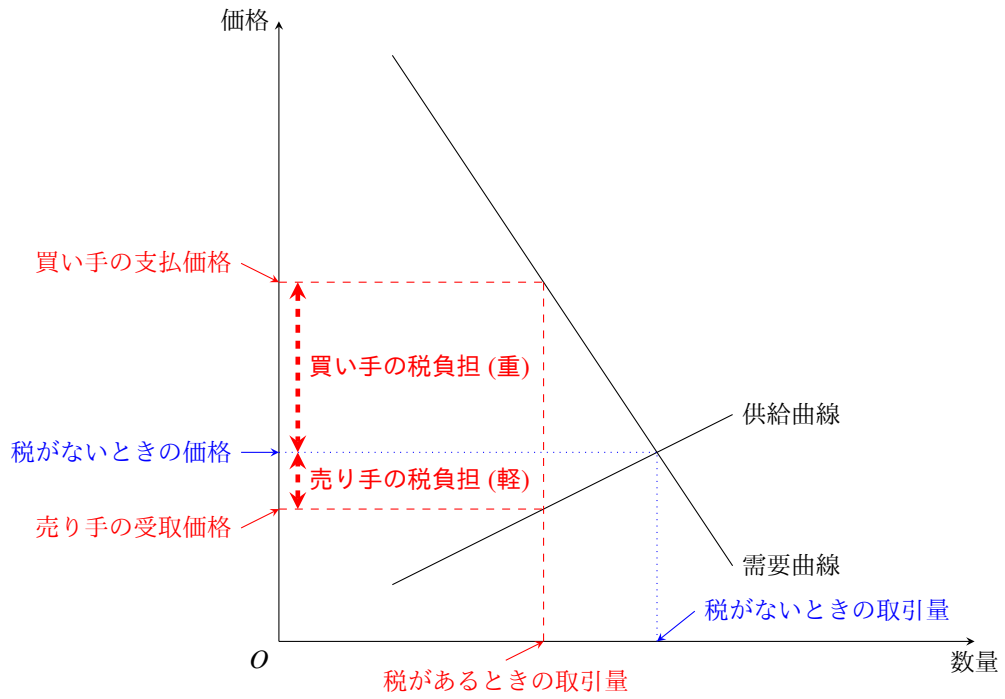
まとめると、

- 価格に対して弾力的 ⇔ 曲線の傾きは緩やか
- 価格に対して非弾力的 ⇔ 曲線の傾きは急

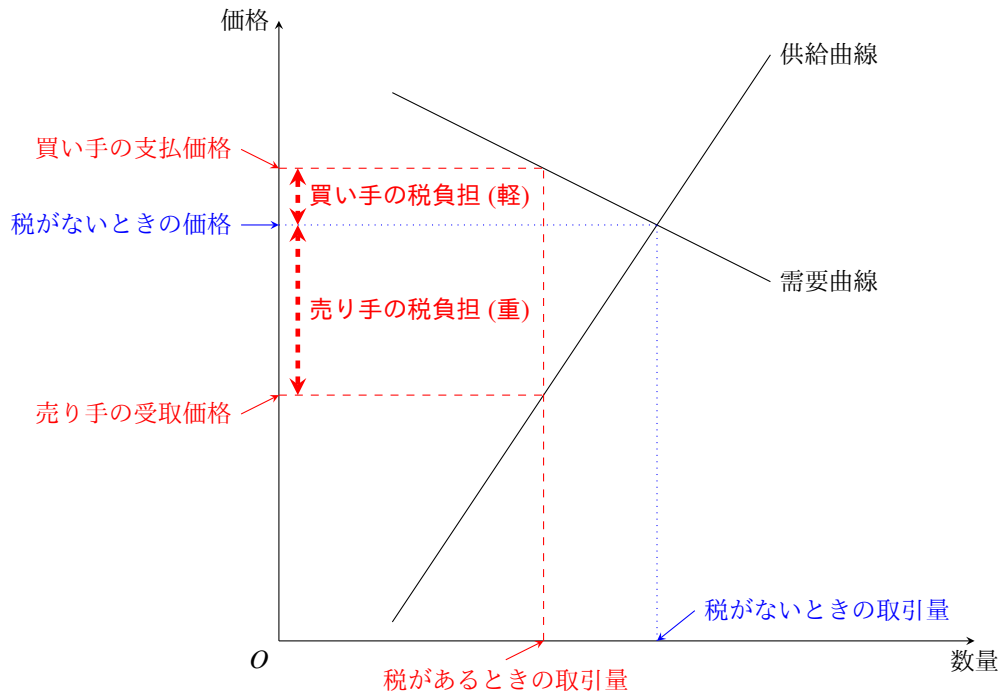
ここでいう税負担とは、税が課されない場合に比べ、買い手にとってはどの程度、財の購入に対する支払価格が高くなっているか、売り手にとってはどの程度、財の販売に対する受取価格が減っているかを表す。

売り手に対して課税されても買い手に対して課税されても、

- 供給が需要よりも弾力的な場合



- 需要が供給よりも弾力的な場合



⇒ 税負担は、価格に対して非弾力的なほうが重く、弾力的なほうが軽くなる。